

## 【上部消化管内視鏡検査（経口） についての説明書】

〔目的〕	・口から内視鏡を挿入し、食道・胃・十二指腸の病気を調べます。
〔方法〕	・胃の中を見やすくする液体の薬を飲み、のどの麻酔をします。 ・必要に応じ胃の動きを抑える薬や鎮静剤(眠たくなり楽に検査できる薬)を注射します。 ・口から内視鏡を入れて、食道・胃・十二指腸を観察します。 ・病変の一部を鉗子でつまみ顕微鏡の検査(病理検査)を行う場合があります。
〔併発症〕	* 併発症が起こるのはいずれもごくまれです。もし併発症が起こった際には当院もしくは提携病院（姫路赤十字病院など）で速やかに対処いたします。  ・消化管出血：病変の一部をつまんだ後などに出血することがあります。 ・穿孔：まずありませんが内視鏡で消化管に穴があくことがあります。 ・誤嚥性肺炎：唾液などが肺に入ると肺炎を起こすことがあります。 ・薬による副作用：アレルギーや鎮静剤による血圧低下や呼吸抑制などが起きることがあります。

〔鎮静剤について〕	・うとうとした状態で楽に検査を受けることができます。 ・検査後30分～1時間程度お休み頂いた後に検査の結果を説明します。 ・鎮静剤を使うとその日は車・バイク・自転車などの運転や機械操作・高所作業などはできませんのでご注意ください。
-----------	---

〔病理検査〕	・病変の一部を鉗子でつまみ、顕微鏡で詳しく見る検査です。 ・検査結果は1週間程度で分かりますので、1週間後以降に結果を聞きにご来院下さい。まれに検査結果が出るのに日数がかかる場合がありますので、できれば受診前に検査結果が出ているかの確認のお電話を下さい。 ・通常の染色方法で正確な病理診断が困難な場合に、特別な検査法（免疫染色検査など）を追加して行うことがあります。その際には後日追加料金が必要になる場合があります。 より確かな診断のために必要な検査ですのでご了承いただきますようお願いいたします。
--------	--